ラミィ・ねね・ポルカ「「「頑張れししろん!!!」」」 wwww」~リィンバウムに迷い込んだホロライブ五期生~

【注意事項】

DF化したものです。 このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にP

じます。 品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布 小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファ 販売することを禁 イル及び作

あらすじ

していた!! 我らが5期生がコラボ配信中にいつの間にかリィンバウムに転移 ホロライブ・プロダクションに所属するアイドルVT u b е

しかもカラダはホロファイブ!!

言えばなんとかしてくれる『獅白ぼたん』

顔が肝臓『雪花ラミィ』

男子小学生『桃鈴ねね』

おまるん『尾丸ポルカ』

ホロライブ5期生の4人は果たしてこの先生きのこれるのか??

ラミィ ししろん ・ねね・ポルカ 「お前らも戦えwww」 「「「頑張れししろん!!」」」

突発的に書いたので、 続くかは人気次第ですね。

ねね・ポルカ 「「「転生したぞししろん!!」」」 ぼたん 草

二日目 だ」読者「同情で票入れようと思ったけど雪民のプライドが許さな かったんだ……」 夜会話 ねね「お前もねっ子にならないか?」読者「すまねえSSRBなん ??? 25 31

なー!!! くて無理です」ねね「これ食べられるかな?」ラミィ「拾い食いやめ ポルカ「で、このドラゴンなんかはぎ取れたん?」ぼたん「鱗が固 36

かなた「リインバウム?」白上「現実じゃい。」友人A「事後処理が ねね・ポルカ・ラミィ …つつ」 「「「助けてししろん!!」」」 ししろん 「やっべ 41

え死にそうw W W 45

ポルカ・ラミィ(絶句)		『ポルカ、おるか?ポルカおらんかー?』ポルカ「サモナイト石返せ」	5.1	ねね「ねねも頑張るぞ!!」ぼたん「成長したな・・・・・ねねちゃん。」
62	55		51	

たん「草」 ラミィ・ねね・ポルカ 「「「転生したぞししろん!!」」」 ぼ

ラミィ「ねねちゃんもうちょっと小さい声でお願いしたい!」 ねね「えー!えっくす!えー!ぜっとあーるえっくす!!」

ぼたん「回避出来てねーじゃねーかよwww」ポルカ「見てから回避出来ない余裕でした!」

その日は、5期生でコラボ配信をしてました。

ぼたん「wwwww」 ラミィ・ねね・ポルカ「助けてししろん!!」

ツッコんで。 5期生全員でのコラボ配信。あたしがいつもどおりパンパン撃っ ほんといつもどおりの配信をしてただけなんだよねー。 いや~…ほんと何が悪くてこうなったんだろうね? ねねちゃんが騒いで、おまるんがひいひい言って、 楽しい配信をしてたんよ。 ラミちゃんが

はじめに異変に気づいたのがラミちゃんだった。 「え……?どこ此処?え?何で私ラミィになってるの?!」

事務所に所属するタレント。 私達はホロライブプロダクションというVTub erアイドルの

ルになれる。 ネット世界の中でのみ、 私達は私達ではなく、 V T u b

『私』が『獅白ぼたん』 のに何故か私達…… でい られるのも、 当然ネットの中の みの特権だ。

ねね ポ ル 力 「うおわっ!!ねねじゃん!!ねね、 「おまるんになってるうううううう ねねになってる!!.」

草ボ して私『獅白ぼたん』。 イブになって、 ホ ーボー、 ロライブ5期生こと『雪花ラミィ』『尾丸ポルカ』 樹木生える天然の島みたいな場所で転がってました。 しかもなんか海辺の、明らかに人工整備がされてな 何故か機材も何も無い のに、カラダがホロファ 『桃鈴ねね』そ

かそういう明らかに自分じゃないカラダの美麗さ。 鏡も無 がけど、 衣装は見慣れたものだし、 あともう手先 \mathcal{O} 肌 ツヤと

で。 から、 そして少なくとも他3人の容姿が互いに完璧に把握できるわ 自分がホロライブになっていることは瞬間的に把握できるわけ けだ

ぼたん ウェストが細い ししろん手足長つ。 こい つ動くぞ。 っわ ー……何が起きたんだこれ?おわ のナイスバディはガチで嬉しい。 身長高つ。 バランス取りづらいぞこれ。 つ!?コ あ、尻尾も生えて 1ケる!!!

えて。 ラミ ラミちゃんはありえない非現実に納得の出来る答えが出ずに狼狽 1 「ちょ つ、 これどうなってんの―?!」

早い ポルカ 根が真面目ちゃ のか現実逃避な 「あ つ!! そう言えば、 んながら人格百面相なおまるんは、 のか分かりづらい 配信途中じゃん!!ヤバ 反応をし て。 頭の切り替えが い放送事故

ねね「ねえ何でねねだけ初期衣装じゃない ?

せっかくなんだからボンボン付きにすれば良かったのに

BANか??こんなところでもBANなのかー??」

ねねちは、 もう既にこの状況に適応して自分の衣装が初期衣装じや

ないことにブーたれていた。

さすがねねち。 男子小学生の異名は伊達じゃない。

とりあえず、みんなが一緒だったことで私も少しずつ頭が落ち着い 視野が広がってきた。

すると、 近くの木に刺さっている物が目に入る。

ぼたん「矢じゃん。」

ねね・ポルカ「ヤだー!!」

ラミィ「言うとる場合かっ!!何で矢が刺さってんの!!ホントにここ

何処なの??何で私達ホロファイブなの?!」

ぼたん「いやー分かんないなぁ…」

運営のドッキリとかだったらもうホロライブ世界取れるで。

とか

お肌ピチピチの美少女になれたし良いんじゃない?

とか、ふざけたことはいくらでも言える程度には頭は回ってるけ

ど、この状況は私も教えて欲しいわ。

ねね「ねね分かった!!これ異世界転生だよ!!

ねねたちきっと異世界にいるんだよ!!」

ポルカ「……あー…そう、なんかな?」

ラミ 1 い やいやいや!!嘘でしょ!!そんなことある!!」

明出来な ポルカ「だって……ねえ?私達ホロファイブなことがまず全然っ説 いしさあ」

ああああ ラミィ 「やだやだやだ!!絶対やだ!!お家帰してええええー ーん!!ラミィギブアップですうううー!!」

たいに、それが当然の現象であるかのように切れる。 鏃が付いている。 みんなが話をしている横で、 試しに葉に当ててスッと引いてみる。 私は刺さった矢をそっと抜いてみる。 ナイフみ

弓はあるんだろうか?周囲を見回す。

ぼたん $\overline{\vdots}$ ……あった。 弓

地球にも現役で使っている国があるからまだ多少はセーフで…… あ つ てほしくは無かった気もするなー。 でもこれはまだギリギリ

「ギャギャギャー!!」

ねね「うおっ!!出た!!」ポルカ「きゃあっ!!」ラミィ「ひいっ?!」

尖った口にギザギザの歯。緑色の、四足歩行。

手先には水かき。

魚類が人型になったような何かが、 突然森の奥から姿を見せた。

それは当然、 それは勿論、 V T 地球では確認されたことの無い生き物。 u b е rとは違うし人間でも無い生き物。

「ギャギャギャー!!」

ポルカ ラミィ 「これはヤバいよ!!明らかにキバ向いて威嚇して来てるよ モンスター ……ウソお…ウソでしょう……」

ねね「モンスターとの初戦闘キター!!あれ?武器は??」

転生しちゃったみたいですね。 私達、ホロライブ5期生。 どことも知らない場所に、 本当に異世界

アレ・・・・?

ぼたん「これ、 あたしが戦うしかななくない?」

手元には弓と矢が一本きり

どうやら、初戦闘はオワタ式の一発勝負をぶっつけ本番で強制され

るクソゲー仕様らしいです。

慣れないカラダに射った経験の無いガチ弓と、ガチモンスターと殺

し合いかあ………うん。

ぼたん「みんな!!逃げるぞ!!」

ラミィ・ポルカ・ねね「はい!!」

たとさ。 息はピッタリ仲良し5期生。 一斉にバラバラに逃げ出したのでし

あ、おまるんが追われた。 !!ボルカ「ぎゃあああああああああーー!!」

たん「おまるん、 ポルカ「ラミィとねねちに見捨てられたんだが?!」ぼ てて欲しい。」ポルカ「ししろん??!」 弓狙いづらいからちょっと食べられ

みなさんこんにちは。ポルカおるよ-

ホロライブ5期生、 尾丸ポルカです。

さっそくですが、ポルカ今!食べられそうになっています!

え?センシティブ?いっそそれならまだマシかも分からんね。

ポルカ、おらんくなるかもしらん!!

「ギャギャギャギャギャート

ポルカ「ギャハハハハハハハーー!! 助けでえええええええええええ

ぼたん「お、新しい座員か?」 えええーーー!!何でポルカばっかり襲うんだよーー!!」

しちゃった!? ポルカ「えぇ?!ポルカ新しい世界来て5分で新しいおまる座ゲット

やあ~んつ、ポルカってば一罪な女~でもお、ポルカにおさわりは、

厳禁だぞっ☆」

「ギヤギヤギヤギヤギヤ

現在わたくし尾丸ポルカ。異世界に飛ばされたと思ったら魚8人 ポルカ「もう着いてくんなやあああああああああああ

間2くらいの割合の魚人モンスターに追われています!

部行けっ!!後ろ振り向けよ、ししろん走って来てんだろうが!! 魚が陸地走ってんじゃねえよ。 綺麗なフォームだなアオイ!!陸上

ポルカ「あああああああああああああ

ポルカ「これ死亡フラグどっちだ!?あと仲間の薄情さに涙が止まり ぼたん「ちなみにラミちゃんとねねちゃんは別方向に逃げました。」

ません!:木も邪魔なんだよ!!:」

り避けては走り。 不規則かつ無作為に生え散らかしている自然の木々を避けては走

ほんとー こんな地球温暖化だの森林伐採だのと騒いでる惑星のお隣さんは、 に自然豊かで美しいですねえ。 羨ましいですよ

まってー」 ぼたん 「ねえ、 おまるん。 走ったままで弓で狙うのきつい から止

ポルカ 「え、 あ、 は いや死ぬ が?

ぼたん 「いや、 おまるんはダイジョブだ。」

ポルカ 「何 が???

ぼたん 「11100~ !! 「元気で命が買えるかァ!!」「おまるんは元気があるからダイジョブだ」

ポルカ

ぼたん W W W W W W

ゲラゲラ笑ってやがる…だと!!まさかこのライオン、 この魚人と一

緒に私を食うために付いてきたんじゃねえのか!?

「ギャギャギャ W

ポルカ 「お前もこころなしか笑っ てんじゃねえよ!!」

埒が明かない!話が進まな い!このままじゃ私は助からな

延々走り続けることになる。

上の敵が恐い 何故か不思議とまったく疲れな いけど後ろから着い 7 くる疲労以

視された体力してるよね? ぼたん「ところでおまるん。 私ら明らかに本来の 肉体スペ ツ ク 無

息一つ切れてないぞ」

ポルカ「それは思った!絶対に今私達は肉体年齢 とかがホ 口

に依存してる!絶対に若返ってる!

青春取り戻せるぞこれ!!生き残ってさえい たらな!!」

ぼたん 「んで敵が魚人?なわけじゃん。」

ポルカ 「魚人だねえ!アーロンかな?」

ぼたん 「周囲は自然に囲まれてるじゃん?」

ポルカ「ワ イルドライフだねえ!!だから何!? ししろんにはもしかし

たら分かってもらえてない かもしれないんだけど、ポルカ今ちょ つと

がピンチなんよ!!」

ぼたん「おまるんが木に登ればそい つ追ってこれ んくな おまる

んってたしかサーカス団員でしょ?」

らってそんな簡単に木に登るなんてこと出来るわけないっしょ? ほら見てみろよ、 何をバカなこと言ってんだよししろん。いくらサーカス団員だか 足元で木をガリガリしてる哀れな魚人を-

ポルカあ、 登れたわ。」

「ギャギャギャ !!!!!

きてきたこの獅白ぼたん。 ぼたん「よしよし。そして弓なんて射ることのないライオン生を生

はし 一本しかない矢で敵をキルしたいなーなんてそんな時に取る行動

れまでタレ目寄りだった目が一瞬で変わる。 しゅっとした綺麗な足を肩幅に開き、弓矢をつがえたししろん。 そ

「ギャギャ?ギャーオ!!」

もう遅い。 ようやく振り向いたことで、 魚人はししろんに気がついた。 でも、

愛嬌たっぷりな獅白ぼたんは、 普段はゲライオン、お猫さま、 今はもう ししろん。 可愛げいっぱい最期まで

ぼたん「おしい。あと1秒遅かった。 獲物を狩る獅子だ。 FPSでは致命的だよ」

「ギッ・ !??

生と死の間を貫く。 つがえた鏃の先の1秒先はを見据えた景色は、 3 c mにも満たない

現実と真実の旋律が、未来を-杏 モンスター の一瞬 O絶叫を奏

ポルカ

…言えばなんとかしてくれる-・獅白ぼたん。

ぼたん Б е a u t i f u l

りきった顔で笑った。 野性味あふれる表情と、健全な子供のような心境で、ししろんはや

ポルカ「実際に目の前でやられると……惚れるわあ、ししろん。」

タ発言やめなーw」 ねね「何故ねっ子だけやたら少ないのか!!!」ラミィ「メ

こんらみです。 ホロライブ5期生雪花ラミィで-

ねね「ねっ子がいなあああああああああ | いっ !!!!??

「きゃっ?!なになになに?!どうしたのねねね!」

ねね「ねっ子がいないんだよう!!」

ラミィ「意味が分かりませんが?!」

ねね「どうして意味が分からないの!!ねっこがいないんだよ!!この

ラミィ「メタいこと言うのやめなー!!!」

を聞いて下さい。 改めましてこんらみです。雪花ラミィです。 突然ですが私の悩み

たのです!! よって一番面倒くさい同期であるねねねと二人きりになってしまっ 今私は、頼れるららいおんことししろんと逸れてしまい、 よりにも

ねね「ラミィちゃんねねのこと嫌いだったの?」

ちょー縁起が悪そうじゃん」 もー……よりによってこんなどことも分からないような島で2人き りで居ることにラミィは不安を隠せませんっ!まがまが~ずだよ!? ラミィ「心読むのやめなー!!嫌いではないよ。 嫌いではないけど

最悪お腹減ったら、 異世界に来たんなら主人公だもん。何があってもなんとかなるって。 ねね「あっはっはっはっはー・大丈夫だよラミィちゃん。 つらら生やせばいいじゃん!」 ねねたち

ラミィ「つらら食べんわ!!そもそもラミィは手から氷とか出さない

ねね「案外今なら出るかもよ?転生特典!転生特典!」

ろがい!!」 ラミィ「そんなもんあるかい!!ラミィ達いつの間にかおっただけや

にいるんはキツイ。 あーめんどくさい。 やっぱりねねねとふたりきりでこんなところ

ししろんはどこ?

ラミィのししろんはどこいったの?あとついでにおまるん。

『ポルカは つい でかい!!

何か 幻聴が聴こえた気がする。 気のせいだね。

ねね 「あー、 おまるん、 元気にしてるかね?ねね達完全に見捨てて

きちゃったもんねえ」

ラミィ 「それはさー……あ 一:言い っこなしじゃん……?やめ

なし。」

ねね「おまるん、 あの怪物と…人じゃないじゃん!!」-!!ちょっとお!バカかお前は!!センシティブなことになってないと いと良いけど」

ラミィ「やめなー

おまるんが、

ねね「えー、 そんな珍しいことじゃないでしょう?割と人間と人外

のさあ」

ラミィ 「やめなあああああああああああああああああああ !!!!!!

ラミィ→天の視点

獅白ぼたん、 上手いこと敵を打倒しました~はい拍手

イドルだから、 ・ドルだから、無理やりなお触りは垢 B A Nしかポルカ「ああ……すまないねえ異世界座員さん第一号。 しかな ポルカはア **,** \ んだよ

ぼたんがヘッドショ ットを決めてお亡くなりになった座員() に両

手を合わせて黙祷を捧げるポルカ。

れな 気に入って追 その目には僅かな涙。 いかけてきた命に、僅かに思うところもあったのかもし 襲いか かってきたとはいえ、 それでも自分を

その横には、遺体を漁る獅白ぼたん。

ぼたん 「なんか良いものドロップしないかな~?」

ポルカ 「ちょお??:ポルカの座員さんなんですけど??.」

しさだって~」 ぼたん「愛してやれないならいっそ極限まで突き放してやるのも優

としてますがそれは?」 ポルカ「突き放すどころか、身ぐるみだけ分離させて同行させよう

話は逸し始めた。 ポルカの言葉にゲライオンしながら、 ぼたんは剥ぎ取りを続けつ つ

済みが増えるねえ」 ぼたん「いや~格好良く決まったねえ~これはSSRB 寸 から着火

ポルカ 「うん、 · まあ。 ポルカ散々な目に遭い ましたけどね?」

ぼたん 「上手いこと連携も出来てたし良かったねえ~」

ポルカ「うん。ポルカは走って木に登っただけでしたけどね?犬か

な?煽てられて木に登ったのかな?」

ら本当に危ないね。 ぼたん 「でも一本しか無い矢も使っちゃったし、 おまるんが」 次に敵が 出 てきた

半々でしょ??ポルカが狙われる前提なのおかしい!!」 ポルカ「いやその理屈はおかしい。ポルカ達二人なんだから危険は

ポルカ ぼたん 「だって事実狙われてたじゃん。 「だから剥ぎ取りやめーや!!それポルカの座員さんー!!」 新しい座員さんに

ぼたん 「おお!斧持ってた。 ドロップドロップ Ì

ポルカ「何故。」

るじゃん。 ぼたん「ん あ、 これねねちゃ 6 しか装備出来な 1 つ て書 いてあ

あとであげよう。」

ポルカ「へ?いやいや、 ししろw装備出来ないって、ゲームじゃな

いんだからw」

よ? ぼたん「いやでもほら、 よーく見るとこれステータス表示されてる

ポルカ

ぼたんに言われたポルカは、 言われるがままに穴が開くほど凝視す

る。

すると……

種類:斧 名称:ゴルドアクス A T K 7 5 C R T 5

装備可能キャラ 桃鈴ねね

ぼたん

ぼたん「これで殴ってもダメージ入らないんかな?おまるんで試しポルカ「なん……だと?」

ていい?

ぼたん 「ダメだよ。 ポ虐反対。」

「普通www

まあ、 いいや。 とりあえずドロップ品も手に入ったし、 まがまが探

そっか。」

ポルカ 「自由か。」

6 ければならねと!!	ラミィは走っています。
	必ずあの邪智暴虐のねねねをしばき倒さ

「ガアアアアアアアアアーー !!!!!! ですうううううううーー

たあの大馬鹿ものを、ラミィは絶対に許さないいいい ?あの大馬鹿ものを、ラミイは絶対に許さないいいいいいいーーー!!.あの背後のドラゴンを怒らせて挙げ句へイトをラミィに押し付け

ラミィ水は許せんわ」ねね「えー!!なんで~!!」 ねね「これでラミィ水も許される……」ラミィ「いや

すタイプ!アイドルVTuberの桃鈴ねねで~す! こんねねー!!ホロライブ5期生オレンジ担当。パチンコのパは隠

アイドルに憧れて異世界からやってきた女の子です。

突然ですがねね、今とってもピンチです!ねっ子がいないことより

もピンチです!

ねね追われています!

ラミィ「待てやねねねえええええええええええーーー

ねね「あー!!外気持ちいwwwww」

じゃ少なすぎる。 何でこんなことになったのか!?それを説明するには約2千文字

よって箇条書きで説明するので頼むぞ解読班!!

あーー

レクションにならないか?

因みに卵は食べれなかった!!お腹減った!!

ラミィ「お前を……ドラゴンの餌にしてやろうかあああああ

りも怖い!あれ?ねねどっちから逃げてるんだっけ?」 ねね「やばいよやばいよラミィ怒り狂ってるよ!!後ろのドラゴンよ

「ガアアアアアアアアアアーーー!!」

あ、まずいドラゴンが火拭いてる!!

ラミィ「くつ……!!前方のねねねに後方の竜!!」

ラミィ「一緒に運ぼうって言ったのに一人だけドラゴンから逃げた ねね「ラミィ本当にねねも敵認定してるの!! 5期生の絆は!!」

のは絶対に許さないからっ!!」

だったらねんを置いて逃げてたでしょう?」 ねね「えー!もう許してよお。ラミィちゃんだって絶対ねね の側

ラミィ「それは――そう…なんだけどお!」

ねね「絶対に許せないことなのかな?よく考えてみて?死にたくな

いって意外と悪いことじゃないよ?!」

ラミィ「ラミィは死にたくないからねねねを許さない!! ね ねねをド

ラゴンの囮に使うまで!!」

ラミィ ねね「えー!?酷いよラミィちゃんーー!」 「酷いことあるかーー -!!バカタレが ・あっ

りゃ息もしづらいし足元疎かになるよね。 ラミ 1 はツッ コミ過ぎて死んだ。 走り ながらツッ コミをしたらそ

ねね「今のはねね悪くないよー!!」

ラミィ「ちょおーー??!助けてよお!!!」

ねね「もー!しょうがないなあ!!」

足元にある適当な石を拾ってドラゴンに投げ

「ガアアアアアアアアアーーー!!!

おお、怒っとる怒っとるW

ラミィ 「ねえ、 ねねね!!めっちゃドラゴン怒ってるけど!!」

ねね 「ドラゴンなら会長で慣れてるでしょー!」

ラミィ「会長基本ヒト型やろがい!!」

足元に落ちている石を拾っては投げて、ラミィから離れて行くねね

は超優秀!!コケるラミィとは違うのだよ!!

なんじゃないの? にしても、 今更だけどドラゴンってさあ……ここゲ \mathcal{O}

あつ……。

ねねコケたああああああああ ラミィ 「ねねねコケたああああああああ !!'!!

「ガアアアアアアアアア !!!!!

ねね ラミィ 「これはやっばい……っっ!!」 「ねねちゃんっ!!逃げて!!」

ねね 「そう言われても間に合わないよっ!!もうダメだ!!ねね死ぬ

ラミィ

るとキラキラしとるやん。 今度はラミィが石をドラゴンに投げ始める。 ,;亻ギィラをギラゴンこ投げ始める。あ、なんか遠目から見「いやいやいやいや!!マズイマズイマズイ!!」 元の世界戻ったら宝石だって言って高く

売れたかなあ? 「ガアアアアアアアアアー

そんなことを考えてる間に、 ドラゴンが大口開けて突っ込んでく-!!:」--!!

ねねを丸呑みにする気らしい。

こうなったらもう、 胃の中で暴れてやるしか無いね……。

ラミィ「ねねちゃん早く逃げて!!」

の肩が弱いのかちっともドラゴンに当たらない。 赤い石、 紫の石、銀色の石。 いろんな石を投げつけるけど、 ラミィ

?ラミちゃん無理やり土掘ったん?指ボロボロだよ? ってかそれ宝石じゃない?投げるの止めなよ。 高く売れるかもよ

ねね もうしゃあないって。 ラミィ 「ラミちゃん」 <u>!</u>?

ねね「死なないでね。」

「ガアアアアアアアアアアーーー!!!

ラミィ 「ねねねえええええええええええええええええ

ねね だから石投げてる場合じゃないよ。 泣 1 、ても、 「囮になったから、 叫 んでも、 喚い ラミィ水の件も含めて許してね。」 ·ても。 これはどうにもなん 早く逃げなってラミィ な つ て。

!!!!!! ラミィ 「やめなああああああああああああああああああ

その代わり、

それから、

直後に真っ白の景色。

走馬灯のようなものが、

視界を埋めたのは翡翠色の閃光。なものが、特には駆け巡らない。

ねねにドラゴンの牙が触れる一瞬前。

「ガアアッ!!」

ラミイ「…………

『やめなー!!!』

何故か『やめなー』がそこにいた。

ねね・ラミイ「「『やめなー』が出たア?!」」

何 で エ !??

ねね「これはいいぞラミィ!!ピンチの時に現れるからにはこの

めなー』はドラゴンを倒せるぞ!!」

ラミィ「ええ…?そうかぁ?!どう見ても強そうに見えんが」

ねね「そうだよ!!見てろよラミィ!!ねねが描いた最強の召喚獣 『や

めなー』がドラゴンを殴り倒す瞬間を!!」

ラミィ「腕無いが?!」

ねね「いっけえ『やめなー』!!」

都合の悪いことは聞かなかったことにする悪いねねねであった。

「あー。」←焼かれる『やめなー』 「ガアアアアアアアアアート ゚゚!! ←炎のブレスを吐くドラゴン-!!」←炎のブレスを吐くドラゴン!!

ラミィ「やられたが?!」 ねね「あああああああああああああーー !!!!! :::: や め な] !!!!????

明らかにやられたが!!白かった見た目が丸焦げじゃん!!

ねねねの腕に抱かれてピクリとも動かない!!

ねね「そんなバカなぁ!!ねねの生み出した『やめなー』 がやられた

あああああーー!!

ねねがすーぱーねねちになるしか……!!] ねねの不屈の精神は受け継いでいな 0) かぁ??こうなったらもう、

フミィ「もう好きにしてくれっ!!」

ねね 「うおおおおおおおおおおおおおお !!!!

ばるく 何だ今の擬音?何かが膨張するような音が聞こえる。 ラミィ 、 うっ!!!! : *k* ???

ねね 「はああああああああああああ あああ

なん か、 なんだろう……??ねねね、 でかくな ってね??

こう……筋肉って言うか、 なんかデカ……デカいっ!!

ラミィ 「ねねね!!あんたどうしたの急に!!」

ね ね 「は あ あ あ あ あ あ あ あ あ !**b**!! あ あ あ あ

あ !!!!!!!!

抉れる。 な音が鳴って、 ねねねが一際大声で叫んだ次の瞬間に、ドン――!! ねねねの立っていた場所の 空気抵抗 一部がクレ の壁を破ったよう ター のように

更に赤いオーラまで出している。 えっと……ドラゴンボ ル ??

ね 「時間 が か か つ てすまなか つ たなあ……」

ラミ 1 何何 つ のあ んた!??

11 つ の間にか腕に抱かれ Ċ いた『や めなー』 は消え去って、 ねねね

はマジ で超サイヤ人みたい になった。

ねね 誰かこの状況説明 「行くぞドラゴン!! してほ しい?!雪民さー 『やめなー』の仇だあああああー ーん!!!ねっ あああーー!!!**!**!!

赤いオーラを纏ってマッ スルになったねねねが、 助走も無しに垂直

に飛び上がる。

で届 てもなお上に。 明らかに人間が飛び上が てしまった。 上に。 とうとうドラゴンが つ 7 良 い高さじゃな 羽ばた い高度に 11 7 11 るところま 飛び上が

ラミ ねね 「これは 『やめな :ねねね、 Ċ の分!!」 人間やめるってよ。」

ねねねの右拳が、ドラゴンの頭にゲンコツを落とす ドラゴンのところまで飛び上がっても充分な余力で滞空している

「オオオオオオオオオーーー??」

ねね「これも『やめなー』の分!!」

あんたアイドルでしょうが。ガチ戦闘やめなっ ゲンコツで下がった頭に勢いもそのままに膝蹴りを入れるねねね。

流石にそろそろねねねの身体も重力に逆らえなくなって来たら

い。滞空が留められずに落ち始める。が

ねね「その首貰ったあああああああああああ

GYAAAAAAAA | !?!]

ドラゴンの首を両手で掴んでトゥギャザーしていくぅ!

さっきまであのドラゴンに命を脅かされていた気がするんだけど、

気づいたら異種属格闘技戦になっていた。

はい地面に落とされたドラゴンが反撃とばかりに爪で攻撃してい 何言ってるのか、ラミィも分かんないが、もう勝手にしててほしい。

くう!

ねねねこれを避ける!だがしかしドラゴン!ねねねを完全には回

避させない!

ねねね、反撃の右アッパー!ドラゴンは尻尾で応戦だあ-

攻めるねねね!受けて反撃するドラゴン!たまに炎吐いて牽制す

るあたり多分ねねねより知能が高い!!

う~ん、ねねね焦る!!なんか少しずつ赤いオーラとマッ スル が萎ん

できている気がする!!

ねねね攻めきれない!!このまま負けてしまうのかー!?

ラミ はっ??.負けたらラミィも食われるやんけ!!.ねね

!!負けるなーー!!」

ねね「声援が遅い!!あとだんだん力が入らなくなって来たから助け

て欲しい!!ラミィ!!つらら攻撃だ!!」

ラミィ「できるかー!!」

「はあつ…はあつ… …!!くっそ このままじゃ 『やめな \mathcal{O}

仇が取れないよお!!」

ねねねはふざけ倒しているけど、このまま本当にねねねがする

誰かー!!助けてよお~!ししろーん!!ねねちモードじゃなくなったら私達死ぬが?!

「力が欲しいか? W W $\underline{\mathbf{W}}$

ねね 「えつ!!」

ラミィ「はっ??この凛々しくしようとして結局耐えきれずにゲラる

芸風は……!!.」

不明。 辺りには森の樹々。もう自分達がどっちの方向から来たのかすら

てくれる頼もしさがある。 圧倒的遭難。圧倒的迷子。 にも関わらず、 この声には、 なんとかし

ん!し s……」 ラミィ 「ああっ!!ししろん!ラミィを見つけてくれたんだ!ししろ

失った。 周囲を見渡して、 探していた銀色を見つけ出した私は

ポルカ 「(ちーん。)」

ぼたん 「ポルカ、生きとるかー?」

ポルカ 「白目)」

ラミィ 「……何事!!」

ラミちゃんの悲鳴は聞こえるし、森の中におまるん捨てていけないか ぼたん「いや~おまるん、 私の足に着いて来れなくってさあ。 でも

ら。 やむを得ず尻尾掴んで引きずって来たw W

たんや……」 ラミイ「……可哀想。 おまるんはラミィの悲鳴の犠牲になっ

こんなにボロボロになって……おまるん。

しいなああああー ねね 「ねえーー!!: おまるんは分かったからちちろん!! ねね、 力が欲

あ、そうだった。こんなことしてる場合じゃない。

どう!!」 ぼたん「はいよー。麺屋ぼたん、特殊ウーバーシープ一丁。 おまち

ブンッ!!と両手で何かをねねねに放り投げるししろん。

ねね「キャッチ!!」

ぼたん「おし、 いっちょうかましてやれねねちー その異世界座員か

らの贈り物でなwww」

ラミィ「斧じゃん。座員さん斧くれたん?」

「ガアアアアアアアアアアーー!!!

ねね「よし、 多分もう力も残って無いし、 この一撃に賭ける!!」」

いた赤いオーラが斧に集中する。 ねねねが斧を正眼の構えで持つ。 すると、 それまでねねねが纏って

もう完全にゲームや漫画の必殺ワザのそれです。

ぼたん「さすがゲームの世界だね~」

ラミィ「あ、ここゲームの世界なんすね……もうそれでいいです。

ラミィ、ウケイレマス。」

ポルカ「」

「ガアアアアアアアアアアーーー!!ねね「くらえ、ドラゴン!!」!

体があるだけだ。 張していたマッスルも、もうほとんど無く、 赤いオーラが全て斧に集まりきって、ねねねが駆ける。 ただ健康敵なねねね あれだけ膨 の肉

がやばいことになっていた。 良かった、 元に戻って。これでずっとムキちでいたらもう、 ね つ子

「ガアアアアアアアアアアーー!!!

ねね「爆裂セクシーねねち斬!!」

ゴンが絶命したことにより、ようやくラミィ達は一息つくことが出来こうして、ねねねのクソダサネームの必殺技で首を落とされたドラ るようになったのでした。

いや名前ダッサ??

ね

ね

ホロライブ5期生、獅白ぼたんですー。 ららーいおん。 ららーいおん。採算度外視ららーいおん♪

宝石を発掘しています。 ちゃんとの再会を果たした獅白ぼたんと尾丸ポルカの二名はですね。 ねちゃんが余波で開けたクレーターのような大穴の中に隠れていた ねねち斬』の犠牲者になったドラゴンから素材を剥ぎ取り、更に、 現在、 ねねちゃんがすーぱーねねちになって放った必殺技『爆裂セクシー 異世界に転生そうそう散り散りになったラミちゃんとねね ね

7 もうねねちゃんが高く売れるって大はしゃぎで回収しておりまし

きしてた後、今は木陰で休憩しており、 ないので、 ラミちゃんは疲労と恐怖が一気にぶり返してきて、 仲良く宝石を鑑定しております。 私とおまるんは現在打つ手も さっきまで 大泣

世の中分からんもんよね。」 ルカ「いやー死ぬかと思ったけど、今は宝石がガッポガッポ か

たねー。 ぼたん「でもわたしとおまるんしか鑑定出来ないってのは意外だっ ゲームならステータス確認って標準装備で然るべきじゃん

い疑惑あるよね。 ポルカ 「それについては多分、 私よりししろんの方が鑑定の制度高

入れないと見えないせいで眼球もげそう。」 ししろに言われるまでポルカは全く気づか んか ったし。 力

味に意外だったしね。 ぼたん「そうだねー。 ラミちゃんが分からない つ て言っ てたの も地

一番後方支援とかになりそうなのに。」

ポ

て感じ。」 あまりにもぴっ たり過ぎてもうさ… マジで ゲ ム な λ だ な つ

イテムっぽいしね。」 ぼたん「そうだね。 \mathcal{O} 『サモナイ 占 とかだっ 7 明ら 丰 ア

えてい おまるん は辛うじて見える程度の鑑定スキルは、 私にはは つきり見

ない。 種類。 ねねちゃんが掘 割と多めに発掘出来ている割にこの5種類意外は全く出てこ つ ている宝石は、 灰色 赤 紫 緑 無 色 \mathcal{L} \mathcal{O} 5

更に宝石ごとに名前が異なり、それ ぞれゲー ム 0) 属性みたい なも

色ごとに 機属性 鬼属性 霊標を持ち合わせていることも分かった。 霊 属 性 獣 属^緑 性 無属性。

印が刻まれたサモナイト石を見るに、このアイテムで召喚獣を喚び出 して使役するのが、 ラミちゃんの話と、 正しい使い方らしい。 戦 11 の後にいつの間にか手元にあったと言う刻

と発光するんだよね。 どうにも、 各々が石を持つと僅かに反応を示す石がある。

私は機属性。 ラミちゃ んが獣属性。 ねねちゃ λ が鬼属性

る辺り、 ねねちゃんも赤いオーラを発して、反応を示したのが鬼属性なわけ ラミちゃんが持ってた刻印の刻まれたサモナイト石が獣属性であ それぞれが対応する属性みたいなものがあるんかもしれん。

だし、 あながち的外れってことはないんじゃな いかなし

あとは -----まあ。 うん。

ぼたん 「は おまるん。 機属性 O石。

ポルカ 「うん?はい。」

手渡し でおまるんの手に渡る 機属性。 反応無

ぼたん 鬼属性の 石

ほ ポルカ「これわんちゃんどっちも、きぞくせい。 ほ って読むんかね?

どうなんだろうねえ?鬼属性、反応無し。

ぼたん「獣属性」

11 、なー。」 ポルカ「これがししろんやポルカじゃないのは気持ちスッキリしな

ぼたん 「ラミちゃんは獣耳めっちゃ つけるからね。」

ポルカ「装飾じゃん!」

獣属性、反応なし。

ぼたん 「ねねちゃんが鬼属性ってのは……や っぱあれアルかね?」

ポルカ「ああ……あれだろうねえ。アル。」

そして、最後に霊属性の石。

ぼたん「ラスト。霊属性」

ポルカ「唸れ!!ポルカの隠された才能!!」

手にポトッと落とす。

ぼたん「反応……無し。」

ポルカ 「ああああああああああああああああ !!!!

何故 てたの?」 ねね「ああー か、 おまるんだけは、 -疲れたああ 反応する属性が無かった。 アレ

?
おまる

んまだ

サモナイト

石調

ベ

ようや 掘 るのに満足したらしいねねちゃ んが満面 の笑みでク

レーターから上がってくる。

ている。 まさかり担いだ金太ねね~。 11 い汗か いたと頬もねねぱ 11 ・も濡れ

ポルカ 「何でポルカだけ反応しないんだよ?!壊れてますか?!」

すっと鬼属性の石を摘むねねちゃん。 ねね「宝石が壊れるわけないじゃんw」

ぽわ~。

れてるううううううう ポ カ「うわあああああああああああ ん!!ポルカだけ差別さ

ポルカだけぽわ~しないいいいーーれてるううううううううううーーー!!

ねね 「まあでも、 このままじゃただ光るだけの宝石なんだよねえ

……あーあっつい。」

なお、 の幸いかもしれない。 部の装飾もお亡くなりになっている。 ねちゃんは、ひらひらスカートをパンツ丸見えお構い無しで仰ぐ。 まあ、 やれやれといった表情でおまるんの手にサモナイト石を戻したね ムキちになった時に伸びたため、 今更だね。 この格好でさっきまで殴り合いしてたんだから。 スカートが無事なのは、不幸中 コルセットはぶっ壊れたし一

ホロライブサマーすら没収されたんだから。 今の格好で放送したら間違いなくぶっ●される。 投稿サイ ・君に。

野性味たっぷりアイドル服か……ねっ子は増えそうでもある W

W

ぼたん 「まあ、 どっちにしてもこんな島 の中じゃどうしようもない

でしょ。 で。 私達このままじゃ 雨も風も吹きさらしな状態でサバ イバ ル な

けど。 て、 ねねちゃんは、 本当は木でも切って急ごしらえでも小屋とか建てれれば良い おまるんが5回ほどゆっくり ねねちゃん以外が斧を降ってもかすり傷一 すし ぱ -ねねちじゃ無くなって斧を制動出来なく しそうになったところで諦める判断 つ付かないし。 んだ

を下すしか無いなった。 というわけだ。

だ。 の中で火事になっても洒落にならない。 しでも金銭の代わりになってくれることを祈っているしかないわけ ポルカ「せめてここが無人島で無いことと、このサモナイト石が少 せめて火でも起こさないと本格的にやばいんだけど……こんな森 ぐすん。」 更にラミちゃんが動けない。

ねね「・・・・わたしたち、絶対に帰ろうね。

ポルカ「うん?どうしたん急にマジな顔で」

ねね「ねね、もっとねっ子のみんなに話を聞いて欲しい。 ねっ

みんなの話をききたい。

歌を聞いて欲しいし、ダンスも見て欲しい。 二人は?」

とここで夜を明かすと思うとマジで怖いので、 ポルカ「んー。 今はまあ……ボロボロなんで風呂入りたいかな。 誰か一緒に寝て欲し

ぼたん 「みんなで今日 のコラボ の続きをしたいかな。」

ラミイ「……お酒えー」ねね「ラミイはー?!」

ぼたん・ねね・ポルカ 「デスヨネー。」

行こうね。 ねね 「目的は違うけど、 みんなちゃんと帰りたい気持ちを忘れずに

れちゃうから。 人間、 本当に追い詰められると、 自分が本当にしたかったこと、 忘

わたし、 まだVTube rでいたい……。」

『桃鈴ねね』 それは、 普段私達が見て の、 ほんとうのきもち。 いるのとは違うねねちゃんの表情だ。

あ ねね 「ねっ子めみんなが 大好きだあああああああ

ものように、あどけない、いつものねねちゃんの表情だった。島中に響くような大きな心で、桃鈴ねねは大きく叫ぶ。それはいつ

照らす唯 日が 昇って、 一の加護だ。 日を見送って、 闇に輝く月明かりが、 この暗闇 の島を

う。 どうしよう。 日が沈んでしまう。 どうしよう。 怖 11 夜が来て しま

私で、 V T 心は変わらない。 u b e r の設定が大きく反映されているこのカラダでも、 私は

はしゃいで、騒いで、道化て、泣いて、 キャラ崩壊なんて言わないで欲しい。 これも私なんです。 落ち込んで……私は

尾丸ポルカは、生きている。

こんなところにいきなり放り込まれて、 眠れるほど私は強く

いいや、私達は強くない。

ラミィと共に身を寄せ合いながら、不確定の闇に怯えて。

すか? 何故かひとり大爆睡しているねねちは、ぶん殴ってもい **,** \ で

に格好 この娘は、緊張感とか無いんですかね?さっきなんかこうい いい事言ってたような気がするのはポルカの気の所為ですか **,** \ 感じ

ねね「ぐおおおお~~ZZZ」

ラミィ ・ねねね、 ぶん殴ってもいいかな?フフフ」

ポルカ「良いんじゃないですかねえ~?フフフ」

になっているのも否めなくて。 それでも、このいつもどおりのねねちが、 私達の唯 一の精神安定剤

ギリギリを保ってくれているのも。 まあ、 事実なわけですよ。

だが殴りたい。

お部屋だったら良いのに。」 ラミィ「ぐすつ… お酒飲みたい。 お酒飲 んで 眠 ったら、 ラミィの

すかねえ? ポルカ「あー腹減った。 なんでポルカ達はこんなところに いる で

るけど、ポルカいるか? ぶっちゃけさあ、 ししろがこういう世界に来るのはまだしっくり来

現状唯一なんの武器もありませんが?」

化後だいふくだったらもう少し安心できたのに………」 ラミィ「ラミィだって『やめなー』なんてネタ武器だよ。 せめて進

とかさあ。」 ポルカ「召喚してみれば良いんじゃない?『だいふく』とか

ラミィ「もうやってみた。」

ポルカ「やったんかい!?それで?」

ラミィ 「だいふくも、 雪民も、 やめなーすら出なかったよ。」

手のひらに乗った刻印付きの緑のサモナイト石を恨めしそうに見

つめるラミイ。

ンスやぞ!!ラミィのこと愛しとらんのか!!」 ラミィ「なんで雪民さん出てこんのや!!ガチのラミィに会えるチャ

ポルカ「んな理不尽な………。」

ラミィ 「ぐすつ……雪民さあん…ラミィにお酒持ってきてよぉ」

え ポルカ「雪民さんも、 お酒パシる為だけに喚ばれるのは嫌だろうね

他愛のない雑談を続けて、続けて。

いつか、私達は眠っていた。

今私はネコ科の夜目を利用して ららーいおん。 獅白ぼたんです。 『矢』 ネコ科ですw を探しています。

何故 現実的に考えても当然おかしいけど、ゲー ーン地点に弓と矢が一対になっていた。 ム世界的に考えてもこれ

は異常だ。

矢が一本しか無い弓なんて……。

それに、単純に何故、 海辺にそんなものが落ちていたのか。

へと向かった。 その謎を解き明かすため、獅白ぼたんは森の奥地 -スポーン地点

いって言うのはなあ。」 ぼたん 「……う~ん。 見事になんも落ちてない。 流木すらな

ステステステと散歩ぐらいの気持ちで海辺を探索する。

誕生してしまう。 ぼたん「このままじゃ、 戦いで役立たずという新しい獅白ぼたんが

か光ってるとこある!

こうなったらおまるんを盾にして近接戦闘するしか… …お?なん

アイテムアイテムー♪」

ししろんは、サモナイト石(霊)をひろった!!

ぼたん「まーたサモナイト石かー──

もうそろそろサモナイト石はいらないです。 ポケットもパンパン

だしカバンも無いんだもんなー。」

ぼたん「およ?」

ぼたん「声……?」

ぼたん「誰……?誰かいますかー?」

ぼたんちゃんし

ぼたん「え!!」

ぼたん「かなた先輩?!かなた先輩どこですか!!」 聞き覚えがある。 この声……この声は

『ぼたんちゃん!!:繋がった!!繋がったよトワ!!』

『もう魔力も残り少ないよ!!急いでかなた!もう… か な I)

:

『根性入れるのら!!トワトワ!!』

『もうムリムリムリムリー』 !! 早くしてかなたー

これ、もしかしてサモナイト石か?

『ぼたんちゃん!聴こえてる?かなただよ!』

ぼたん「はい!聴こえてますかなた先輩!! 今私達はねぽらぼでい つ

の間にかドラゴンとかがいる島にいます!!

あとサモナイト石とかいう石があります!どこかわかりますか?!」

『やっぱり!!ぼたんちゃんよく聞いて!!そこは『リィンバウム』ってい

う本物の異世界で、 そこはハゲが作った人工島だよ!』

とあるの??」 ぼたん「人工……?!っていうか、 もしかしてかなた先輩ここ来たこ

『そうだよ。ボク達も されたことがあるの。 四期生もまだココが 現役だった時 代に 召喚

てるはずだから、 その石をぼたんちゃんが持ってるからには、 還る手段もちゃんとあるの。』 おん なじ島に 召喚され

ぼたん「還れる……どうすれば良いんですか?」

『島の中心に、 召喚のために作られた祭壇があるの。 それを使えば還

れる………んだけど、実は昔還る時に壊しちゃったんだよね。

ぼたん「うえぇ??握りつぶしちゃったんですかかなた先輩??」

『そんな拳デカくねえよ!!! ってツッコませるなぁ!!

になってくれるはずだから!』 んのお店』を探して。そこにいるメイメイさんに事情を説明すれば力 とにかく、ぼたんちゃん。まずはその島にあるはずの『メイメイさ

ぼたん 「メイメイさんのお店?!この島無人島 じゃ 11 λ

『ううん。実質無人島だよ。なのに何故かそこでお店やってるんだ

ぼたん「その人大丈夫なんですか?(主に頭)」

『うん。まあ、酔っぱらいのヘラヘラしてるお姉さんだけど、まあ、大 丈夫だよ。』

へんにあるんですか?」 ぼたん「あー、わかりました。それで、 メイメイさんの店ってどの

『メイメイさんのお店は、島の

ししん。

ぼたん「……かなた先輩」

サモナイト石、 完全に沈黙。

ぼたん「……

どうやら、通信が切れたらしい。

そう気づいたときには、 新しい朝を告げるべく、 朝日が昇り始めて

きていたところだった。

ぼたん 「かえるか。 みんなんとこ。」

日目

ポルカ な?」ラミィ「拾い食いやめなー!!」 たん「鱗が固くて無理です」ねね「これ食べられるか 「で、 このドラゴンなんかはぎ取れたん?」 ぼ

ポルカおるよー。尾丸ポルカです。

たよお。 新しい朝がきたー。 希望ください朝ーだ…… ··ああ……お腹減

水も見つからず、 魚人やドラゴンが湧いてくる異世界生活の二日目でございます。 木の実のひとつも見つからず。 ポルカは餓えていま

は……察しろ。 元気なのはねねちと、ししろんも平常通りを保っています。

ご飯抜き2日3日は当たり前って言うし。 何て言うかさあ……ししろんはまだ分かるじゃ ん?獅子だしさあ。

私は設定はクォーターで、四分の三は人間だ。

たと思う? けど、ねねちは人間じゃん?何で元気なのって聞いたらなんて言っ

だよ。 ねね「人間、 ねねは一日ガム一個の時代もあったからね!!」 ご飯や家が無くても一日二日くらいどうとでもなるん

.....ねねち.....

少し涙が溢れた。

ぼたん 「みんな、 かなた先輩と連絡が取れたぞ!!」

ラミイ「え!!本当に?」

ねね「おおー!!」

朝起きたら姿が見えなくて焦っていたししろが戻ってきた邂逅一

番、そんなことを言い出した。

ポルカ 「かなた先輩に?どうやって連絡取れ たん??」

ぼたん「浜辺で矢が残ってないか探してたら、またサモナイト石見

つけてさ、そっから声が聴こえたんよ。

なんとここ、昔、 四期生も来たことがあるらしい

ラミィ 「それじゃあ、 還る方法もあるんだよね??」

ラミィが希望に満ち溢れた声を出す。 私ももちろんそれを期待し

ている。

だって四期生は今間違いなくわたしたちの世界にい . る。 つまり、 _

の世界に来てから帰還しているということなのだから。

た。 けど、 ししろの返答は、 そんな期待を真っ向から否定するものだ つ

ど、 ぼたん 四期生が還るときにぶっ壊したらしい……」 「それが …島の真ん中に転送用の 祭壇が有るら 11 んだけ

ラミイ「なんでよ?!」

ポルカ「そりゃあ、 ドラゴンとかポルカたちの世界に来られても困

るからでは?」

ラミイ「ううう……つつ」

のが来たら世界中大パニックだが、今のポルカ達にはその祭壇が壊れ 恨めしそうな声で唸るラミィ。 気持ちは分かる。 そりやあ、 あんな

ているのは死活問題だ。

かったけど、この島は無人島だけど何故かお店があるらしい。」 ぼたん「うん。 もも「それで、 話の途中で通話が切れちゃったから、 これからどうすれば良い とかは聞けた?ししろん」 全部は聞けな

ポルカ「無人島にお店をやっている人……??え?それ誰が買いに来

るの?」

ぼたん つぱらい 「さあ? 店主ら でも私達がたどり着けばお客になれるんじ しいから、 食べ物も食べるだろうし、 水やお酒も」

ラミイ「お酒 え!!」

ぼたん・ねね・ポルカ「はいはいはいはい。」

ぼたん 「まあ、そんなわけだから、 私達はこれからメイメイさんの

お店を探すことがメインクエストになります。」

ポルカ「この未開の島で、ドラゴン警戒しながら、 どこにあるか分

からな い店を探すって、無茶苦茶激むずじゃん。

初手のメインクエストとは思えねえ!!」

ぼたん 「留守番したい?多分戻っては来れな いけど」

ポルカ「同行させてくださいお願いします」

ししろん、この島に来てからポ虐が進み過ぎじゃないですかね?し

まいにゃポルカ、泣きますよ?

ぼたん「ねねちゃんはどうする?」

ねね「もちろん行くよ。ねねが行かずに誰が行くの~?戦えるのね

ねだけなんだよ~」

ポルカ「その斧、 主にポルカの首にばっかり来るんですけどね?」

ねね「ああ~この斧は座員さんだったか~」

ポルカ「ポルカの座員さんはポルカの首なんて狙って来ないもん

!! _

ぼたん「なお異世界座員1号」

ポルカ 「やめろおおおおおおおおおおおおお

ねね「そっか、これ座員さんの斧だったね。 そりやおまるんのとこ

ろに行くのも仕方ない~」

ポルカ 「もっとお姫さま的に愛されたい……っっ!!」

ぼたん「さてと、それじゃあ特に準備もいらないだろうし 【メイン

クエスト】『メイメイさんのお店を探せ』 に出発しますか

ねね・ポルカ「おー!」

ラミィ「あのお………」

ぼたん「ラミちゃん?」

ポルカ「?どしたのラミィ?」

ねね「何かあった?」

誰か助けてください……」 ラミィ 「……恥ずかしながら、 お酒が切れてもう動けましえん。

よく見てみると、 なんか手が震えているラミィ。

え?そんな大げさにアル中な子じゃなかったよね?!

らのイメージも誇張して現れてるんかな?」 て、 ぼたん「………もしかして、ラミちゃん。 ホロライブの設定だけじゃなくて、配信で積み重ねたリスナーか いや、 私達のカラダっ

も?: ポルカ「……もしかしてししろんが全然疲れてる感じしてな \mathcal{O}

サバイバルでも生きていけるんじゃね?』ってイメージが誇張されて るのかも。」 ぼたん「FPS配信してるし銃の知識もあるから 『獅白ぼたん なら

ポルカ 「ねねちがねねちのままなのも?」

ぼたん「ねねちゃんなら『別にサバイバルぐらいでくたばらんや

ろ ってイメージがあるのかもしれない。

もともと社畜だったって言うし努力家でもある。 更に小学生男子

のイメージも手伝って最強に見えるのかも。」

ポルカ「そう言えば、 ぼたん「ブラック企業に努めて地獄を見てきたメンタルに、 ねねちって、19歳の設定だったな: 十九歳

という若く瑞々しい肉体……

ぼたん・ポルカ「「弱いわけがない!!」」

ねね ?

をおんぶしていたねねちがいた。 わたしとししろが振り向くと、 何か言った?みたいな顔してラミィ

ります。 ポルカ「あ、 チース。」 社長。 ラミィはポルカが背負います。 役立たずが

おまるん」 ねね「そう?じゃあねねはバ トルで活躍するよ。 ラミィは任せたよ

ポルカ「はい……っ!!」

なんとなく頬を濡らした涙。

とに関する悲しみの涙じゃない。これは雨だな。きっとそうだ。 断じて自分の活躍の機会がないこ

見せ場が……欲しいです…!!

かなた「リィンバウム?」白上「現実じゃい。」友人A 「事後処理が………っつ」

ます。 白上「えー・・・・・皆様、 おはコンでございます。 白上フブキでござい

本日はですねえ……えーさくや 昨夜……ですねえ。

絡を取りましたところ、なんと音信不通!!:] れるという謎の現象が起きまして、ですねえ。 いて観ていたわけなんですけども。 不幸な事故が重なりまして。 ねぽらぼコラボ配信。 急に四人全員の配信が突如途切 白上、 速攻ディスで連 白上も4窓開

コメント:おはコン~

コメント:白上も観てたのか

コメント:4窓w

コメント:4窓ってwww

コメント:4窓はガチw

コメント:音信不通?!

白上「これはもう只事ではないと察した白上は真相を探るべく、

門家のえーちゃんに突撃した……!!」

友人A「えー。 皆様、おはコンです。ホロライブ事務所の裏方担当、

友人Aです。

象について、 今回は昨夜のねぽらぼコラボ配信が突如、 何故か専門家として喚ばれてしまいました。 止まってしまうという現

何故なんでしょうか……?」

コメント:草

コメント:頑張れえーちゃん

コメント:何だただの放送事故だったのか

じゃあ俺はえーちゃ んのまな板でPHPHしたい。

安心したから白上の尻尾モフらせて

コメント:PHPHするだけの大きさが――

コメント:↑良いやつだったよ……

白上了 コメント:VTuber -そんなわけで皆さん。 ってなんですか? 昨夜のことは~忘れろビ

白上「忘れ過ぎなんじゃい!」

配信が終了し、ホロライブの事務所には

ホロライブ 一期生、 兼ゲーマーズのリーダー。 白上フブキ。

そして、ホロライブ事務所の裏方。友人A

更に、 四期生の天音かなた。 姫森ルーナの四名が訪れ っていた。

友人 A かなた「はい。 「それではかなたさん。 今回の『ねぽらぼ』同時失踪の件につ 状況 の説明を お願 11 します。 いてですが、

はりボク達が睨んだ通りでした。

確認出来ました。」 ム』に召喚されていたことが、通信に成功したぼたんちゃんの発言で 四人全員が、かつてボク達四期生が召喚された異世界『リ 1 ウ

ルーナ「残念なことにトワが途中で ヘタれて通信が 切れたか 5

しいことは聞けなかったのら~」

白上「トワ様は今どうしてるの?」

ルーナ「MP使いすぎて死にかけてるのらよ。 あっちと違っ て、 M

P回復も体調依存だから無理なのら~」

をすることで炎上を可能な限り抑えることは出来たと思います。 ではありますね。 友人A「リィンバウムですか。 おかげでフブキさんと一緒にある程度の説明配信 あの時と違って情報があるだけマシ

た『メイメイさん』という人のお店を探すようにだけ伝えたところで、 かなた「それで、とりあえずぼたんちゃんに、向こうでお世話になっ

や

通信が切れてしまいました。」

白上「それじゃあ、四人は今無事なのかな?」

に感じました。 かなた「昨夜話した限りでは、 ぼたんちゃんはあまり問題ないよう

す。 ダと、 そうでしたけど、あの世界に行くと自分のVTub 他の3人がどうなのかは、 設定、リスナーからの印象で強烈なものが反映されて受肉しま 確認できませんでした。 erとしてのカラ けど、 ボク達も

力が付与されてました。」 りつぶせる』『翼で飛べる』みたいな、 例えばボクが、 『手のひらに収まる程度の大きさの程度のもの オルタナティブに使えそうな能

る感じがしてたから。きっと本人も気付いているんじゃないかな?」 友人 人 A かなた「多分あると思う。 白上「それじゃあ、 ルーナ「ルーナは 「本当に、 ホロぐらも真っ青な話ですね。」 『ルーナイトを召喚できる』 四人にもそんな能力があるのかな?」 ぼたんちゃん、声が少しわくわくしてい 能力なのら~」

ルーナ「ないのら~」かなた「それは無いです。」白上「それはどうかな?」

友人A「あ、そうですか……。」

ね……。」 かなた 「危険性だけなら、 IJ インバウムはホロぐらに負けないけど

その頃、リインバウムでのねぽらぼ達は……

ねね「頑張れおまるん!!」ぼたん「走れおまるん!!死ぬぞ」

ポルカ「む、無理い!!ラミィ背負っとるんやぞ!!」

ねね「無理は嘘つきの言葉だ!!」ラミィ「ふにゅう……」

ポルカ「ふっざけんあああああああああああああ

!!!!!

た。 弓を番えて襲ってきていたのだっ

ろん ねね ・ポルカ・ラミィ「「「助けてししろん!!」」」 しし 「やつべえ死にそうw W W

獅白ぼたん、われわれ一同が挨拶できないこの状況をお許しくださ

はねぽらぼ一願となって命辛辛逃げてます! ねねちゃんが接近戦を挑んだ瞬間、大剣に持ち帰られたので、 現在、ライオン顔 の獣人が弓を番えながら迫ってきています。 今度

レです。しかも逃げてる途中に一匹増えた!! でもおまるんがラミちゃん背負ってて遅いんでもうあの世スレス

何故こうなったのか?

遡ること……いや、時間が分からんなw

森の中を進んで、どのくらい時間が経っただろうか?

子は良いぞ。 私は獅白ぼたんのカラダのおかげでもう、とにかく元気だった。 って感じでゴキゲンに歩いてた。

ちゃんメンタル。 ねねちゃんもそんな感じだった。 弱いわけがない。 19歳の若い肉体。 そこにねね

歩を進めるおまるん! 子泣きじじいという宿業を背負い、生まれたての子鹿の如く勇まし

ポルカ「………泣き、そう…」

ねね「おまるん、替わろっか?」

ポルカ「……いえ、ガンバリマス。」

ぼたん 「私かねねちゃんの方がずっと力あるんだけどね~」

ポ ル 力 ゙゙゙゙゙゚゚゙゙゙゚ ルカがやるの おおおおおおおおお !!!!!

ねね「いやーこれはしゃーないね。」ぼたん「もう手出せねえじゃんwww」

ぼたん・ねね

「私達は悪くない!!」」

こんな感じで、 私達はメイメイさんのお店を探して、 森を進んでい

そして多分数分後………

アアアアアア ポルカ「アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア !!!!!

.....こうなった。(投げやり)

ねね「走るか死ぬかの二択やぞー!」ぼたん「おまるん、走れ走れ走れー!!」

ポルカ「配信じゃ無いんだから助けてよ!!」

ねね「斧がおまるんの首に行くんでw」ぼたん「矢が無いんでw」

ポルカ「味方がいねえ!!」

ける!!」 ポルカ ラミィ 「ちょ、ラミィ!!耳元でハアハア言わないで!!エロ 「ハァ……ハァ…んんっ……」

達をまとめてこう……ブルドーザーでガガガー!と恋の穴に落とし ていきそうな、潤んだ瞳と弱った表情をしていた。 ポルカ ラミィ おまるんの背中で喘ぐラミちゃんの表情は、女慣れしていない男性 「ラミイー 「あぁ……ん…っ……」 -!! 死ぬ!!ポルカ達死ぬて!!ラミィもやぞ?!」

も冷めるでこれは。 まあ、この魔性の女、 酒が切れてるだけなんですけどね w千年の恋

これは魔性の女ですわw

ぼたん「つと、 流石にそろそろ助けに行かないとマズイな。」

く。 タン、 と地面を蹴ってカラダを可能な限り水平に保って直進してい

んのカラダじゃなかったら絶対に出来ないね。 まさに二足歩行の獅子にふさわしいスピー ド で走り抜く。

G A A A A A A A O !!!

遥か先に弓を番える獣人の姿。 おまるんには見えていないようだ。

ヒュン--!!

私がおまるんに着くより先に矢が放たれる。 間に合うか?

ぼたん「おまるん伏せ!!」

ポルカ「え!!ワン!!」

獣の筋力で射撃された矢は撃って来たと思ったらもう目 の前にあ

るぐらい早い。

かない。 多分わたし以外見えてない説はある。 だから矢は私が 対処するし

でくれば多分…… 顔面アウト の射線から頭をずらして、 矢を頭の横に迎える。

パシッ。

ぼたん「よし!!矢確保!!」

ポルカ「え!?アンタ掴んだんか!?」

ラミィ「……うにゆ…?!」

ねね「いいぞししろん!!」

手に入れた貴重な一本の矢を番える。今更ながらこちら洋弓なの

で、素人でも全く撃てないなんてことはない。

でなきやゼロ距離といえど射撃なんか出来るわけもない。

それでも私と獣人の距離は遠い。マイクラならギリ当たるかもな

距離。 素人が間違っても射抜ける距離ではない。

よって

ぼたん「おし、逃げろおまるん!」

ポルカ 「ポルカ、 逃げまーす!!」

敵は獣人二匹。 武器は弓と大剣持ちが一匹。 槍持ちが一匹。

距離を詰めれば仕留められるかもしれない。 弓持ちを倒せれば矢

筒を奪えるはず。

や 無理でしよ。 ここはやっぱり

ぼたん っね ねちゃんー 足止め

ねね 「おっけー <u>!</u>

槍持ちの獣人が迫ってくる中、 ねねちゃ んも追い ついてきて、 私の

横を通り過ぎて行く。

両者激突する雰囲気。

弓持ちは私が弓を番えているのを警戒しているのか、 私から目を離

さない。

実力がバレてないって素晴らし **,** \ ですねえ W

ぼたん (……けど、 連携が出来るほど知能はヒト寄りのモンスタ

なんだね。

罠にハメてトドメだけ刺すって言うのは、 無理臭い 、なあ。

ねね「おりゃあ!!」

考えを纏めている間に、 ねねちゃんが槍持ちにたどり着いて交戦開

始。

チは長いし、 勢い良く攻めているような声を出してるけど、槍 ある程度振り回して、 斧は剣と違って刃を当てて引けば斬れるってわけでもな 打撃に近い行動を取らなきゃいけない のほうが 当然

「ガオッ!!」

ねね 「くつ……!!」

すだけで、外皮が柔らかい相手には充分な殺傷力がある。 それに引き換え、槍の方は自分のカラダを小さく纏めて 腕を前に出

さで勝てるわけもなく。 どうあがいても、直線で攻撃してくる槍に、曲線で攻撃する斧が速 ねねちゃんは全く攻撃に移れない。

斧を横にして、 盾のように防ぐので精一杯だ。

「グオオオオオー

弓持ちの方も武器を大剣に変えて私に接近してきた。

ぼたん「うわあ、やっばいw」

咄嗟に近くの木に登って上を取る。 それと同時に剣が 私が

木を切り倒す。

ぼたん「いや嘘やんwww」

剣で木切ったぞコイツw

ねね「やっぱいよコレ……っ!!」

木が倒れる前に他の木に飛び移った。 ちらりとねねちゃんの方を

見ると、 所々で防ぎきれずに切り傷が出来ている。

達も離脱しないと。 これは予想以上にマズイ。 おまるんもなんとか遠くに逃げたし、

ある。けど今元気モリモリなこいつらを連れて行っても、 けど、 どっちへ逃げるべきか?おまるん達と離れ る 同じことの 危険では

繰り返しなのは目見えるわけで・・・・まじどうしようか。

ぼたん「・・・・・・・。」

ねね「はあっ・・・・はあっ・・・・!!」

ねねちゃんは限界だな。 そもそも獣人なんて見るからに身体ス

ペックが違う相手で、武器まで相性有利。

ヒューマン。ここまで耐えただけでも相当だ。 だっていうのにねねちゃんは、 肉体は瑞々 しくなって ŧ 種族は

あ ぼたん「・・・・・しゃーねえな。 ったら紹介してくれよな。」 SSRBは、 この状態で入れ る保険

覚悟は決めた。よろしい。ならば実行だ。

一本だけ手に入った弓を番えて、 槍持ちに照準を合わせる。

ねね「きゃあっ!!」

ねねちゃんが、 足に槍を食らって膝をつく。 ナイ スタイミングだ。

シュッ――!!

「ガアアアアアー??」

撃った矢が上手いこと槍持ちの肩に当たった。

ぼたん「うりゃあ!!」

来たこと。 そして刺さった矢に向かってライダーキック。 ししろんだから出

切っていった。 槍持ちが更に絶叫を上げたところで、 弓持ちの矢が私の横腹を横

ぼたん「うぐうっ!!」

ねね「ししろん!!」

ぼたん「ねねちゃん、そいつにトドメ刺して!!」

ねね「――!!」

もしないあたり、さすがねねちゃんだ。 私の声ですぐに落としていた斧を拾いにいく。 根性が違う。 怪我した足を庇い

だからわたしも、背後の弓持ちに向き直る。

「ガアアアアアアアアーーー!!」

増えたけど、どうせ死んだら中身は空っぽになるんだよ!! 気持ちで負けないように吠える。 腹部から流れてくる血潮 の量が

ぼたん「せめて、 ねねちゃんだけでも逃してみせる。」

!!!!! 空元気、 強がり、 そんな心境で笑う。 せめて笑って死んでやるよお

ねね「・・・・・ししろん・・・・。

ねね ねねちゃん。」 「ねねも頑張るぞ!!」 ぼたん 「成長したな:

こんねね~!挨拶は大事!桃鈴ねねです!!

怖いです!!

なぁ!? ライオンが武器持って襲って来たんだもの。 怖くないわけないよ

けど、それよりも今は未来が怖い。

ラック時代に見たことがある顔だ。 ししろんが笑ってた。普段のゲライオンのじゃない。 これは、ブ

『自分が死ぬかもしれないことを自覚している顔』だ。それでも後に 引けない、逃げられない顔。

友達が、そんな顔してて欲しいわけがない。本当に死にかねない。

ぼたん「ねねちゃん、そいつにトドメ刺して!!」

ねはみんなに笑っててほしいんだよお。 この状況でそんな事思うねねの方が絶対におかしい。それでも、 そんな必死な顔で言わないでほしいよ。 そんな必死な声で。

. | !!

だから起き上がった。 斧を拾って。 足の痛みは無視! 超痛 いけど

飛ばした獣人の頭に斧でクラーッシュ!! 歯を食いしばって、涙が出てくるのも構うこと無くししろんが蹴り

「グオオオオオオ!!」

プシュ――ツッツ!!

防御なんて頭になかったらしく、 ねねの斧が獣人の頭にたどり着く直前に、 放たれた槍が、 獣人が槍を向けてきた。 ねねの頬を僅かに掠

ねね「はあつ・・・・はあつ・・・・!!」

頬から流れる血を拭いながら、息を整える。

襲ってきていたと思うドラゴンとは違って、 ドラゴンの時とは違う、嫌な気持ちが心を蝕んでくる。 武器を扱って、 狩りのように襲ってくる。 獣人達はヒトに近い形 本能だけで

担がかかったんだ。 まるで、 抉られた足が痛い。 人を殺したような、 重い斧を力ずくで振り回したせいで、 嫌な気持ちに・・・押し つぶされそう。 余計に負

痛いし、怖いし、辛い。もう無理……っ

押しつぶされ――

ぼたん 「うおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

ねね????

押しつぶされそうになっ た瞬間、 ししろんが吠えた。

ぼたん 「せめて、 ねねちゃんだけでも逃してみせる。」

ねね「・・・・・・ししろん・・・・。」

いだろねね!! 11 気持ちに押し つぶされそうになりかけた。 そんな場合じゃな

もう無理? ししろんはもう丸腰なんだ! ね ねがやるんだ!足が 痛 ? い?

あ ね ね !!! 理は 嘘 つきの言葉だああああああああ あ あ あ

喉が枯れるはど叫ぶ。 ぱぱ ねねちに・・・ 弱 1 気持ちを押 つぶすために。 もう 度

《桃鈴ね ねがスキル :【糞ブラック根性論】 を獲得り しました。》

ぼたん「え?今何か声が聴こえた・・・・?!」

ねね 痛みが消えた……?!よし、 行ける!!:」

た大剣を構え直して襲いかかる。 ししろんが一瞬だけ隙が出来たのを見逃さない弓持ちの獣人がま

「グオウ!!」

ぼたん「うおっと!!」

ねね「ししろん、下がってて!!後は私がやる!!」

ぼたん「ねねちゃん!?足は大丈夫なの!?」

ねね「大丈夫!痛くないよ!!」

さっきまでが嘘みたいだ。カラダが軽い。

斧が手足のように振るえる。

獣人も大剣を振るって、お互いの刃がぶ つかり合う。 僅かにねねが

押し負けるけど、 気にせずにもう一度斧を振る。

てない辺り、やっぱりアレはやめなーの力だったんだね。 ねをすーぱーねねちにしてるかな?やめなーの時のムキムキになっ ると全然違う。さっき聴こえた【糞ブラック根性論】とかいうのが、 スピードも、パワーも、僅かに相手が強いけど、 さっきまでと比 ね

でも、僅かに赤いオーラが出てる。 じゃあもしかして撃てるかな?

『爆裂セクシーねねち斬』

「ガアアアアアーーー!!」

ねね「うあああああああああーーー!!」

足元が悪くて動きづらい。 乾いていない土や湧き出てい る根っこ

に足を取られないようにしながら、 大剣を斧で叩いて弾く。

気持ちで負けない!大声を出す!!動きは繊細に!!辛くても笑う!!

なんだ・・・・ライブとおんなじじゃん。

ねね 「だったら行けるぜ!!おりゃああああああああ

「ガアアアアアアアアーー!!!

ガキン――!!

その時、初めてこいつに打ち勝った。 もうやるならここしかない!!

迷ってる暇なんて無い!!

ねね「---!!『爆裂セクシーねねち斬』!!:」

移動する。 薄っすらとカラダから湧き上がる赤いオーラが、昨日と同じく斧に

今できる全力――ぶつけていこう!!

ねね「―――ゲフッ――?!」

たらない。 吐いた。唐突に、赤い何かを・・・・あともう少しの所なのに、 意識が・・・・・・遠・・・・い 斧が当

ししろん・・・・・

《獅白ぼたんがスキル【ライオン・プライド】を獲得しました:》 ぼたん「うおりゃあああああああああああああーー」

最後に聴こえたのは、いつもの、ねねが大好きな、ししろんの声だっ

た・・・・・。

```
ラミイ「・・・・・・ここ、どこ・・・・・?」
```

・・・・・・歩いている。

わたしは、おまるんの背に乗っていたはずだったのに?

・・・・・・歩いている。

たった一人で?

・・・・・歩いて、いる。

みんなはどこ?

・・・・・・・・歩いて・・・いる。

何処に歩いてるの?

・・・・・・・・歩いて・・・・いる・・・・・・。

「ふ~ん・・・・・こんな島にまた召喚される人が いるなんてねえ

だ......

「ねえ、お姉さん。どこから来たの?」

分からない・・・・・。

「何処へ向かうの?」

分からない・・・・・。

「あらら~これはこれは. い状態になってるな

a

みんな………。

「うん?どうしたの?」

みんな・・・・を・・・・助けて・・・・・

何があったのかな?」

襲われ・・・・・てる、の。

「それは大変。 じゃあ、 お姉さんが助けてあげないと。」

わたしに・・・・・何が、 出来るの……?

「簡単なことが出来るんだよ。お姉ちゃんが出来ることだけのこと。」

ラミィに・・・・・出来ること・・・・・?

なにが……出来るの?わたしに……なにが?

感じるよ?」 「例えば、懐の召喚獣を喚ぶのはどう?その子、とっても強い繋がりを

召喚獣……?やめなー…?

でも、一度出て来てから、 全然出てこなくなって…

「それはね、 召喚術の中には、 絆が必要なものもあるからだよ。」

「よく思い出してみて、 お姉さん。 その子を呼ぶ時、 何がしたかったの

・わたしは…

丸ポルカでーす。 ポルカおるかし アンケートでポ虐望んだやつら絶対許さんからな!!おかけでポル ?おるよー。 多分もうすぐ死にまーす!!ポルカ終わるかー? 5期生の金髪のプロペラが回る方、 尾

カは今

人×50「l

ポルカ 「ぎゃああああああああああああり

ししろんとねねちが引き受けてくれた敵の25倍の数の敵に追わ

れとるんやぞ!!

しかも背中にはラミィ!!ここまで一度も離 して な い!!ポル カ 偉 V

無いわー!!

けど辛い!!人間背負って捕まったらデッド

・エンド

 \mathcal{O}

鬼ごっことか

足が重い、 おいこら!!弓撃つな!!槍投げるな!!卑怯やぞ!!アアアアアア カラダが重い、 ラミィが重い!!

が!!剣が!!爪が来る!! !:悲壮感極大の悲劇のヒロインになるな!!」 覚めのところだけど、もうすぐポルカ達永遠の眠りに付くかもしれ ない もやりも避けて走ってます。 からその 「ガオオオオオオオオオオオオオオーー!!」 ねえ。ラミィには一発も被弾してません。 ポルカ「あ」 ズルン。 ポルカ ポルカ ぎゆ ポルカ アアアアアアアアアアアアアアアアア!! そろそろ足が生まれたての子鹿!!あ!!雨まで降ってきたァ?! ここまでずっと尾丸ポルカ、ラミィを背負ってジグザグに走って矢 ポルカ「ラミィ!!その言い方だともうデッドエンドまっしぐらだぞ ラミィ 背中には護るべきもの。 ポルカ「嘘でしょ??目の前にも来やがった??.助けてししろー ラミィ ラミィ ラミィ ラミィ ポルカ「アアアアア・・・・・死ぬう・・・・ここに来てから水 今度こそマジで食われるかもしれん!!わため先輩的な意味で!! い 更に足元に雨で泥濘んだ泥入りましたァ!! つもりで。」 「見つけた?何を!!」 見 \[\cdot \cd 「地獄だろうよ!! 片道切符でな!!」 「・・・・・・・・・・・・・・・どこに向 つ。 つけたの。」 ん?ああ‥‥起きたんか眠り姫ぇ‥ …じゃあ……みんなのところに…行きたい :ん…あれ……?」 おまるん・・・・・・・ 天空からは雨。 色違い出すときだってここまで走って かっ 褒めて。 ?? 7 後方の る *の*? 獣。 ・・・せ 眼前にはも つ 弓が!!槍 かくお目 ん !!!! んで つ

ポルカ「え・・・・ラミイ?」

ミイ 死に際にポルカを包んだ思い出は、 の感触と香りでした。 背中からポルカを抱きしめるラ

る。 民。 未来だって・・・ ああ・・・・最期の記憶としては、 羨ましいだろ?もう何も怖くねえ。 ちなみに、ポルカの顔はラミィの胸と腕の中だ。 最高じゃねえか。 2秒後に横たわるポルカの そう思うだろ? 包み込まれ 7

たくない ポルカ「ごわいよおおおおおお いいい \ \ いいい **,** \ V いい ーラミイい !!'!! 泣 \ \ 1 11 1) 11

出した。 そう言うと、ラミィはポルカを抱きしめていた片腕を敵 ラミィ 「大丈夫だよ・・・ハア・・つ、 ラミイが…っ護るから の前に差し

ポルカ ラミィ のポルカを抱きしめる腕 「ま、 まさかラミ イ自分の腕を!!!」 の力が一層強くなる。 役得です!!

絆に新たな力を授け給え。 四界の ラミ 1 「・・・・・・・・行くよ・・・・ 幻獣界・メイトルパに連なる新生よ、 召喚 『やめなー その生命を持って

――『サンドバックやめなー!』」

翠 の 光がラミィ の手 \mathcal{O} 中で輝いて、 白い 球体が現れる。

やめなー『やめなー。』

サグサグサグサグサグサグサグサグサグサグサグサグサグサグ サグサグサグサグサグサグサグサグサグサグ サグサグサグサグサ サグサグサ サグサグサ グサ サグサグ グサ グサ グサグサ グ ŕ 、サグサグサグサグサグサグサ ´グ サ グサ グサグ グサグサグサグサグサグサグ グサグサ ノサグサ サ グサグサ サ サグサグサ グサ グサ ´グ サ **,** グサグ ´グ サ グサグ グサ ゚゙サグサ **・**サグサ **・**サグサ サ サ サ グサ グサ ゙サ グサグ グサ グサグサグ グサグサ グサグサ サ サ

やめなー 『あ

葉すら生温いレベルで串刺しにされた?!」 かったけどポルカと同じ帽子被ってた『やめなー』が出落ちと言う言 ポルカ「やめなああああああああー |??? |??? |ツ | ツ コミ入れ る間も

喚したねぽらぼ ラミィ 「・・・・大丈夫だよ、 のMPを最大MPを越えて回復させる能力なんだ 『やめなー』は、 攻撃を受けると一緒に召

ポルカ ¬..... :お?なんか気持ちいい。」

は! になったように、 ラミイ「-らかう。 おまるんと一緒に召喚した時の ねねねと一緒に召喚した時は『ムキムキねねち』 『やめなー』 の能力

故か浮き上がって変形する!! 串刺しにされて空気の抜けた風船みたいになった 『せやなー』 が 何

カステントになるのさ?!」 ポルカ「って、 赤い!三角!!なんか入れそう!!うわ ポルカサーカスやないかい!!何で『やめなー』 ~楽しそう W W W が

ラミィ 「さ・・・・さあ・・??」

ねつ。 ポルカサ ・カス 『誓約の儀式を始めるよ!サモナイト石を入れ Ċ

イス)』 誓約の 儀式を始めるよ!サモナイト石を入れてねつ。 (おまるんボ

かポルカの声で・・・・・。 私達二人が唖然としていると、ポルカサー カスが喋りだした。 何故

ポ ル 力 「何でこのサー カステント、 ポルカの声で喋ってるんだ?」

能力なのかあ・・・・とりあえず、サモナイト石入れてみようか?」 ラミィ 「おまるんと召喚した『やめなー』はポルカサーカスになる

それは・・・・・」 ポルカ「入れてみよっかって、結構高いとこに浮かんでるんですが

ラミィ「そうだけど・・・・でもまだ目の前にも後ろにも獣人がおるや

テーマパークに来たみたいだなあ。 爪もギラッギラ。 ポルカ 前にも後ろにもいる獣人達は矢も槍も品切れ。 「さあサモナイト石を入れてみよっ オラわくわくすっぞ!!ほーい!」 か!!あし けどまだまだ牙も -楽しみだなあ、

か!ポルカが喰われる前に!さあ、 喰われる前にさっさとあのポルカサーカスには活躍し サモナイト石はくれてやったぞ全 てもらおう

さあ働いてもろてえええええええーーー!!然適当に投げた無色と翠のサモナイト石やぞ!

じゃあ ポルカサーカス 【誓約の儀式】はっじまっるより 『サモナイト石を入れてくれてありがとう!!それ

ドルカ? ポルカ、オルカ?ポルカおらんかー?ポルカ、 (おまるんボイス)』 おるか?ポルカ・オ・

歌うタイプのゲーム?」 ポルカ「・・・・・・・え?歌いだした??なにこれ?100円入れたら

ラミィ「そんなんいらんやろ。」

「ガアアアアアアアアー!!」

ついに獣人さん達動き出した。 変身バンクの空気読みタイムは

終了ですかそうですか。

ちゃうと視聴者ももちろん、 でももう、ポルカもなれちゃいましたよ。 当事者だって慣れちゃうもんですよ。 天井なんて 何度もやっ

なんたってポルカはもうラミィを背負って逃げる必要は無いんだ

ポルカ「さ、逃げよっか。ラミィちゅわ~ん。」

ミイの姿があった。 ポルカがラミィの方を振り向くと、 そこには光の柱 の中にい たたラ

ポルカサーカスから出てる光じゃん~。

いい)」 ラミィ コンコン。 (光の柱をノックする音。 かわ

聞こえる。 ラミィは可愛いが、光の柱の発する音は全然可愛くな これ絶対硬いやつだ。 シールドかなり \ \ \ \ 鈍 11

「ガアアアアアアアアーー!!」

一匹の獣人が、 背後から爪で切り裂こうと腕を振るう。 かすり傷一

つ付いてない。モース硬度いくつかなり

ポルカ「おお~すごいねラミイ。 ここの中なら安全だね~。 ポ

もい~れて。」

頭打った。 ゴッ!!! 超痛い。

ラミィ 「・・・・・・・入れないね。」

何でこんな悲しいことが起こるの?!いいいいいーーーー!!!」ポルカ「――嘘でしょ!!入れて!!入れてラミィポルカ「――嘘でしょ!! **,** \ **,** 1 V) V) 1 11 1 1

11

何でラミィだけお姫さまみたいに護られてるの!?ポルカはどうす

の !??

· · · · あ ー:おまるん?後ろ来てる。」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・っつっつ!!」 ポ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

ポルカ、 リアル鬼ごっこ再開するってよ・・・・・・。

ポルカ ポル ハカサー 「うがああああああああああ 力 ス 『ポルカ 才 力~? つ つ!!!!!

ポルカ・ラミィ(絶句)

なんか4ヶ月くらい走らされ続けた気がする4分間。 みなさんこんにちは。おひさしぶりです。ポルカはいきてます。

『まだまだ着いておいで、笑い転げちゃうサーカス!きっとっ、ここだ けだよ~♪』

んじゃねえだろうなと、ガチ恋距離で問い詰めたい今日この頃。 いかがお過ごしでしょうか。 まさか歌の4分と4ヶ月を掛けるためだけに更新4ヶ月サボった 皆様

カも進化出来るかも知れない。 4ヶ月分です。今ならもしかしたらこの胸に溜まった気持ちでポル ポルカは走った時間はきっちり4分。 背負った披露はしっか l)

まったもの大してないわ。 やつぱ無理だ。 ポルカの胸、 ナーフされてたんだったわ。 溜

ラミィ「がんばれーおまるーん。」

に緊張感ないなってるよ…。 5期生の胸がしっかり拘られていた方、雪花ラミィさんはもう完全

『今にも世界中を!虜にしちゃうから!』

とに安堵する初めてのVTuberかもしれんわ。 ポルカ「あーようやく歌が終わる……ポルカ、自分の曲が終わるこ

さあ!そろそろいい加減ポ虐タイムを終わらせて反撃させてもら

おうか!!」

曲の最後の伴奏が終わった。

これから何が起こるのかは分からない。 それでも、ここから何かが

変わるはずなんだ!

ラミィ「おまるんの反撃が、 ついに始まる……!!」

「グオオオオオオーー!!」

するけどな…けど、ポルカ達は所詮は別の生き物。 最後まで付いてきてくれたお前たちにも、多少は愛着が湧いた気も 同じ世界では生き

られない。 あの、 最初の異世界座員さんのように。

ポルカ 「さあ、 やめなー。 ポルカの新たな力を与えたまえ!!」

ルカの覚醒が始まる。 つ と勢い 良く天 (に浮いているやめなー)に手を伸ばし、 今、 ポ

『ウェ 客様!~~♪』(イントロ) ルカ W wwム!!あなたは選ばれしポルカサーカスの初めてのお

ポルカ 「ウェルカムじゃねええええええええええええええええええ ええええええええええええええええええん !!!!

嘘でしょ!!ねえ嘘でしょ!!何でリピート始ま ってんの!??

のCDプレーヤーとしての役割しかないの?! ここから反撃の流れじゃないの!! これマジでなんなの、 本当にタダ

『なぁーんてね!冗談冗談っ♪

(ポルカボイス) して、唯一のネタ(ボソッ)武器をお披露目したいと思いま~す それじゃあ一緒に可愛く叫んでねっ♪はい、 大変長らくおまたせいたしました!!これよりおまる座の真骨頂に ホロぐら~サモン☆』

ポルカ「ホロぐら~サモン☆」

ボイスで、ついでにポージングまで完璧に披露させる。 カは疲労している。 期待されたら応える芸人根性が、 こんな時でも全力の可愛いポルカ もちろんポル

ひゆく

ラミィ 「お、 なんか降ってきた。」

「グオッ?」

「グギャッ??!!

えないんだけど」 ラミィ「敵に脳天直撃した!おまるんアレ何?こっからじゃよく見

ラミィは見えていないらしいが、ポルカにはしっかり見えているか 今ポルカはとっても感情の無い目をしていることでしょう。

らね。アレが何か。アレは……

ポルカ「…………タライじゃねえか。」

そしてさらに

まるで英雄王の財宝のように、空からスコールのように降り注ぐ金

ダライの雨が、何十体もいた敵さんをギャグ時空のように蹂躙してい

う完全にギャグです。 やられた敵さんは、目をクルクルにして、舌がでろんってなって、 も

ラミイ「これ、 時間稼ぎにはなりそうだね……うん」

ボトツ。またなんか降ってきたわ。 今度はポルカの足元に。

何だ?ポルカにも金ダライ当てるつもりだったのか?そろそろガ

チで戦争するか?ん?

ポルカ「………芝刈り機」

ラミィ 「いでよダイフク!……なんちゃって。」

きた。 その掛け声に呼応したかのように、もう一つ。 いや、 体が降って

説明すら烏滸がましいでしょうよ。 てきましたよ。 ええ。 ホロぐらで芝刈り機つったらもう、 そして芝刈り機をその手に掴みましたよ。 そりやもう、あ 聡明な雪民の皆さん のダイフクが降っ

それでは皆さん。ご唱和ください。

せーのっ

IJ 芝刈り機『ぎゅ !!』(ラミィボイス) V といいい **,** \ , , V) \\ | ん!バリバリバリバリバ ゙゙リバ

の激かわボイスで奏でる芝刈り機の独唱の始まりです。

の皆さんです。 バックコーラスは先程までタライを食らっていた獣人コーラス隊 1 い声ですね

ええ。 今ポルカが見ている光景。 もうお分かりですね。

ていく獣人達の阿鼻叫喚地獄絵図の光景です……… ダイフクが持つ芝刈り機に引かれて、 ぐちゃぐちゃのミンチにされ

ラミイ「……………。」

ポルカ 「タライで昏倒させた後に、 後始末の芝刈り機か

ラミィ「………………(気絶)」

こうな。」 にはその結界モ解けてるだろうから、そしたらししろんたち探しに行 ポルカ「ああ。 もうゆっくりお休み。 ラミイ。 多分全部終わった頃

な石がポルカの手元に出現した。 この後、 森の一部は真っ赤に染め上がり、 やめなーは消えて、 透明

ずだよ。 た。 るかも知れない手段をギリギリ捨てずに、持ち歩くことにするのだっ なったんだよ。 …多分、 そう自分に言い聞かせながら、ポルカは初めてまともに戦え アレはラミィがダイフク呼んだからあ きっとポルカが使う分には、 ギャグ漫画攻撃で済むは \mathcal{O} 地獄絵 図に

ポルカ 「多分、 滅多に使わない と思うけどな・・・